日本キリスト教会　広島長束教会だより

ミニバラ No.34

〒731-0135　広島市安佐南区長束 3-32-16

TEL/FAX
082-238-3459

2011 年 10 月発行

神が備えてくださる

「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。」
（創世記 22 章 8 節）

神は、平和な日々を送っていたアブラハムに突然、あまりにも過酷な試練をお与えになりました。アブラハムと妻サラの愛の結晶、夫婦にとってすべてと言ってよい息子イサクを焼き尽くす献げ物としてささげなさい、と言われるのです。子供を親自身によってささげさせるとは、あまりにむごい命令だと言うしかありません。

この時のアブラハムの胸中は察するにあまりあります。そんな命令など聞かなくても良いではないかと思う人がいるでしょう。そんな神様は信じられないと言う人もいるでしょう。しかし神の命令の上に立つものは、この世に何もありません。アブラハムはその声に従いました。

二人の若者をつれて出発したアブラハムは、３日目に神の示されたモリヤの山に着きました。アブラハムはこの３日間、拷問にも等しい苦しみの中で、神に服従することを最終的に決断しました。泣き寝入りではありません。積極的に神に服従すべしとの解決です。

アブラハムは若者たちを山のふもとに留め、いよいよモリヤの山に登ります。イサクは「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいるのですか」と父親に尋ねていますが、これはアブラハムにとって、実に胸のえぐられるような問いであったでしょう。しかしアブラハムは「焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる」と答えています。これはどういう意味なのでしょうか。

私は、アブラハムは極限状態の中で、一切を神のみこころに委ねる以外、何も出来なかったのだと思います。人間にとって神が意図されているところはなかなかわかりません。しかし信仰に生きようするなら、たとえ何も考えられないような状況にあっても、ただ神を信頼するのであり、そのところでその信仰が本物かどうかが現れるのです。「焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる」という言葉の中に、彼のぎりぎりの、最高の信仰があらわれています。

神が命じられた場所に着くと、アブラハムは祭壇を築き、薪を並べ、イサクを縛ってその上に載せました。激烈な心のたたかいの中で、今にもくずれそうになりながら、そして何のために最愛の息子を殺さなければならないのかわからない状況で、神に従うことだけが彼のすべてとなったのでした。

そうして、アブラハムがまさに息子を殺そうとした時、主の御使いが現れてイサクは助けだされました。アブラハムが見回すと、茂みの中に一匹の雄羊がいたので、これをイサクのかわりにささげました。「神が備えて下さる」という言葉の通り、神が献げ物にする小羊を備えて下さったのです。

神は人を試されることがあります。その中には、何のために苦しまなければならないのか、理由もわからなければ、解決策も見出せないものもあります。しかし、そうした試練の中でイエス・キリストの十字架ほどのものはありません。何の罪もない神のみ子が処刑されたのです。主イエスご自身、すべて納得して十字架にかけられたとはとても思えません。…そして、その時、愛する独り子をいけにえにした父なる神のお苦しみも、イエス様に劣らず大きかったにちがいありません。人間一人ひとりの苦しみを見ておられる神ご自身が試練に耐えたのですし、今も耐えておられるのです。

イサクは助かったけれども、イエス様は助かりませんでした。神の怒りによって罰せられなければならなかったすべての人間にかわって、キリストが神の祭壇にささげられました。神の備えたもう最大のものが、「世の罪を取り除く神の小羊」であるイエス・キリストだったのです。

（2011 年 9 月 18 日の礼拝説教より）
牧師　井上　豊